



ホア ビン (平和)

HOA BINHLレポート

JVPF 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町316番地菊地ハイツ101 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
#101, Kikuchi Haitsu, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

55号

2023年7月

会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円(口座名/特非)日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)188872

日越外交関係樹立 50 周年の年に

歴史の上に、双方向交流の発展へ

●第16回総会が2023年5月20日に開催され、2022年度と次年度活動について協議してきました。総会では参加者がこれまでや今のベトナムとの繋がりについて報告し、日越(越日)外交関係樹立50周年を期した2023年の活動について双方向交流の視点で一層の活動展開を図ることを確認しました。

●日越関係は現在興隆を極めていますが、「未来志向」と標榜しても現在につながる過去の上に立ったものかどうかで、わたしたちの活動の在り方が異なってくると思います。

——1973年の外交関係樹立後もベトナムでの戦争とその戦禍は続き、南北統一が果たされ戦争状態が終結したのは1975年でした。ここに米国や日本に見捨てられたベトナムの「民」たちの2年間がありました。

——日本政府のトップの総理大臣がベトナムを訪問したのは1995年の村山富市(現・当代会長)政権になって初めて実現しました。外交関係を樹立しながらかつアジアの国であるベトナムに足を向けなかった歴史がありました。

——さらに振り返れば、1940年の日本軍によるベトナム侵攻、1944~1945年の「200万人餓死事件」を引き起こしたこと、を日越交流の基底に保持しておくことを忘れてはならないと思います。この歴史に区切りを付け「未来志向」へと歩を進めたのは、戦後50年の節目にあたる1995年8月15日に、村山富市・総理大臣が発表した談話でした。この『村山談話』で日本政府として初めて、第二次世界大戦中にアジア諸国で侵略や植民地支配を行ったことを認め、公式に謝罪しました。

——そして、現在をみれば、日本在住の外国人労働者182万2725人(留学生アルバイト含む、2022年10月)のうちベトナム人労働者が46万2384人と最も多く全体のおよそ4分の1となっています。彼らとの共存に耐える法整備がなされているのか——課題が横たわっています。

●さらに、現在に繋がる問題として、日本国内の廃棄された大量の枯葉剤の50年があります。

——戦後、朝鮮戦争特需と、それを継続するかのごときベトナム戦争特需によって、1960年代から70年代にかけて日本は「高度経済成長」期を迎えてきます。戦争によってです。

——ベトナム戦争終結に向けた動きの中で、日本で生産されていた枯葉剤爆弾用の枯葉剤は行き場を



上: ハノイ市内、飢えている人々
下: 日本軍が没収した米を取り戻そうとするハノイ市民たち
※いずれもハノイ歴史博物館所蔵



失いました。これを山林の除草剤に利用しようとしたことが安全性の問題と「反対闘争」に遭い、1971年、日本政府は埋設による廃棄を行いました。保管器材の腐食による汚染防止について誰も担保していません。「美しい国」(故人となった総理大臣が称した)日本にはフクシマ原発事故による放射能汚染以前に枯葉剤による汚染に見舞われていたのです。

今、この“亡霊”が甦っています。(副理事長 鎌田篤則)

【本号の内容】

- ・2023 春訪問団/枯葉剤被害者慰問 2 軒/2021「仁愛の家」寄贈地視察、2022「仁愛の家」寄贈式/2~4p
- ・ハザン省少数民族学生奨学金贈呈/4p
- ・寄稿 ベトナムで「ブラインドメイク」/5p
- ・JVPF 第 16 回総会報告/6~7p
- ・追悼 大西繁治副会長のご逝去を悼む/6p
- ・日越外交樹立 50 周年訪問団/鹿児島 JVPF/8p
- ・topics 在日ベトナム仏教徒会が大震災被災地・宮古へ/5p
- ・掲示板/7p

2023 春訪問団

枯葉剤被害者支援

ハザン省で枯葉剤被害者貧困家庭調査・慰問と「仁愛の家」寄贈

被害者調査・
慰問①戦争はいつも弱者に

那須 まよ (宮崎)

1944年生(78歳)男性 (Ly Van Chi)、ザオ族。
ハザン市フオンドー社 Na Thac 部落。
・1966年(22歳)~1970年ベトナム戦争に出征した。現在の症状は左足が委縮して3年前から歩けない。車椅子を先月、国から支給された。話し方はたどたどしいが、笑顔で話す。家族は妻と子供3人。子供には今のところ枯葉剤の影響はない。息子の家に同居している。軍人年金が月に262万ドン支給されている。
・私が最後に“なんでもいいから書いてください”とお願いすると右手で(ベトナム語)「革命戦士」と書いた。なぜそう書いたか意味を聞くことはできなかった。



写真右: Ly Van Chi さん

(私の印象)
ハザン市は、私にとってとてもなつかしい感じのする町であった。

Ly Van Chi さんは、私たちの訪問を、彼は部屋の隅っこに座って笑顔でむかえてくれた。質問にも気持ちよく答えてくれた。左足が委縮して歩けないとのことなので、みせて

もらった。

リハビリや生活支援の実情はどうなっているのだろうか？リハビリにより日常生活がもう少し改善するのではないか、車椅子は彼の家の条件からすると(段差のある家、坂道など……)使用できるのかなどもっと知りたかったと思う。

ベトナム戦争・枯葉剤の被害がこんなにも根深いものだと想像していなかった。日本での原爆被害者も同じようであるが～

戦争はいつでも弱者に強い被害をもたらすことを目のあたりにし、再認識するよい機会になった。

被害者調査・
慰問②戦争の悲惨さを痛感

吉元 富士男 (奈良)

1月9日、枯葉剤被害者の家庭慰問した二軒目は Nguyen Van Noi 氏宅。タイ一族、1955年生まれ。ハザン市フオンドー社 Thon tha 部落。

●2022年度事業として、JVPF はハザン省で枯葉剤被害者貧困家庭に「仁愛の家」寄贈活動を取り組み、「連合・愛のカンパ」の助成を受け実施してきた。

●3年ぶりに実施された友好訪問団(2023年1月8日~11日)は盛りたくさんのプログラムを実施してきた。

- ・家族は妻、子供夫婦、孫三人の7人家族。
- ・彼は1974年にNLF(南ベトナム民族解放戦線)に従軍、その後、北ベトナム軍に従軍し翌年終戦まで主に軍用車の運転



写真左: Nguyen Van Noi さん

に携わっていた。

・現在彼(写真右)は左足が萎縮する症状と左目が盲目であり、枯葉剤による被害症状と認定されている。生活は農業で生計を立てているが健常者と同じ働きはできない。家屋、生活状況を見るに極貧である。

・補償金として国から月262万ドン(日本円で約15,000円)支給されているということである。

・今のところ、この家庭の二世三世に枯葉剤被害影響は見られていないことがせめてもの幸いである。

ベトナム国内では現在でも二世三世への枯葉剤被害影響があり、100万人以上の方が外的障害、遺伝疾患、がん等の後遺障害に苦しんでいるといわれている。

改めてベトナム戦争の悲惨さを痛感させられたツアーであった。

建築なった2021寄贈「仁愛の家」視察

ハザン省バククアン郡 Nậm Mông 地区 Việt Vinh 部落

山本 利治 (東京)

1月11日、コロナ禍で送金支援で建築された「仁愛の家」寄贈地に視察に向かった。ベトナム語で「nhà (家) nhân (仁) ái (愛)」と言うそうだ。あの「アオザイの闘志」と呼ばれたグエン・ティ・ビン女史(元ベトナム副大統領)が名付けたという。「めぐみいつくしみの家」まさに愛のあるネーミングと思った。

当日私たち訪問団は車の入れるところまで行き、そこから歩いて現地に向かった。前日の記念植林の植林地に行くのに



写真上：元の家の模様
写真下：寄贈のプレート除幕を行う
写真円：lauさんと森団長



もけっこうしんどいところを歩いたが、今回もけもの道のような農道のような道をてくてくと歩いた。途中、行く手に見えたのがなんと小川。丸太や石が置いてあるところを小川に落ちないように気を付けてわたり、それから数分山の中をあるき目指す寄贈地に向かった。途中点在していた家もかなり粗末で老朽化している家が多かった。

視界がちょっと開けた場所に今回の「仁愛の家」が見えてきた。

《Đặng さん一家及び昔の家を紹介》

・Đặng Thị Lầu, Ms (1948年生まれ。民族：ダオ、住所：ハザン省バククアン群ナムムオン村) 現在、「仁愛の家」に住んでいる方。

・夫のバン・ヴァン・ナムさんは1947年生まれ。1979年2月に軍に入隊し、ハ・トゥエン省(現在のハザン)で戦争に加わり、除隊後2017年に病気で死亡。

・3人の息子。長男も1984年に国境警備隊に参加。除隊後、労働事故で足を骨折し不自由に苦しむ。他の2人の息子も非常に貧しい。

・以前の家は昔の農家の納屋(物置)みたいな今にも崩壊しそうな家だった。かろうじて雨はしのいけても、壁は外が見えるような作りで冷たい風が吹き抜けるような感じだった。(ベトナムと言ってもハザンは北部の高地で冬はかなり冷えるらしい)土間みたいなところで暮らしていたと推測できる。

さて、先方に見えてきたのは決して豪華ではないが、プロ

ックを積み上げた真っ白い「仁愛の家」であった。機能的な家に見える。玄関を入るとすぐにリビング。左にいくと寝室が2つ。右は台所。その奥がトイレ、シャワースペースだろうか(通路にわんちゃんがお昼寝していて奥まではいれなかった)

総費用1億7700万VNDのうち、JVPFが1億5000万VND支援。ここで感心したのが、村人たちが整地やブロック積みなど無償で労務提供をしてサポートしたこと。省外務局、村の人、まさに官民一体となって作り上げた仁愛の家であった。

家の中の視察のあと、村主催の寄贈式典が華やかに行われた。森団長がLầuさんに「新しい家の住み心地はどうか?」と問いかけるとコクリとうなずいてうれしそうな顔をしていたのが印象的だった。Lầuさん一家も家はあるものの生活は決して楽ではないと思われた。

帰り際にLầuさんに日本語で「さよなら、いつまでもお元気でいてください」と話しかけたところ、笑顔で微笑んでくれて「ありがとう」と日本語で返してくれたように聞こえたのは気のせいだったか。

ベトナムでは最低生活水準を下回る世帯数、全国で14%、ハザン省は42.08%。貧困に近い世帯数、全国で6%、ハザン省は13.04%。ベトナム全体からみてもハザン省は特に貧困の率が高い。

同じ人間としてハザン省の人たちも今より少しでもいい暮らしができるよう微力ながら応援していきたいと思う。

2022年度「仁愛の家」建設費の贈呈

ハザン省バククアン郡 Việt Quang 地区 TanThanh 集落

溝口 究 (宮崎)

街中のはずれの、舗装していない荒れた道を歩くこと10分ほどで、高床式の家にとり着いた。そこでは、ハザン省外務局の副局長や職員の皆さんと現地の村長などに出迎えていただいた。

高床式の家には、枯葉剤の被害者であるコウさん(Hoang Anh Cau)と妻のホワさんが住んでおられた。ハザン省バククアン郡 Việt Quang 町 TanThanh 村。

コウさんは1972年から1981年まで徴兵されてクワンチーで従軍し、1978年からはラオスに派兵されていた。従軍中に枯葉剤爆弾の被害にあい、現在歩行が困難となっている。枯葉剤爆弾被害者として月に2,620,000ドンの年金を受給している。

コウさんの生活は自給自足に近く、主にコメを作っているが田んぼの面積は360平方メートルしかなく、生活は苦しいとのことであった。子供は2人いるとのことであったが、独立して別ところで暮らしており、それぞれに自分の生活があり援助は困難な状況とのことであった。

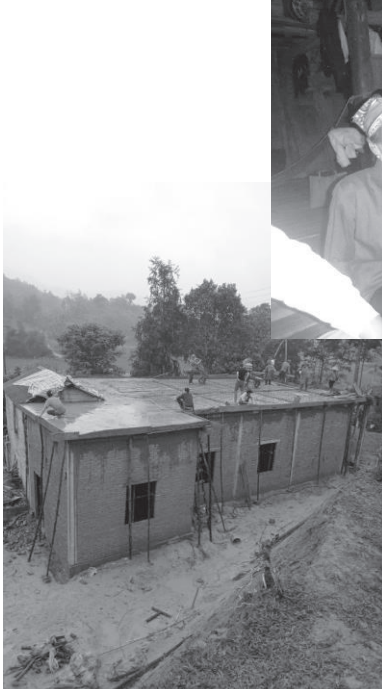
家の床は割った竹を敷き詰めてあり、壁も竹を編んだもので、冬は隙間風がはいりかなり寒いだろうと思われた。1986年に一度改築したとのことであったが、ここでの生活は寒さ対策などで必要で、地元政府が「仁愛の家」建設を望んでいることも理解できた

このような厳しい生活状況をお聞きした後、新しい家を建設するための費用の贈呈式が行われた。



2022年秋のチャリティーコンサート活動などの益金と、「連合・愛のカンパ」助成で、「仁愛の家」建設費として**1億7,500万ドン**を寄贈した。

コウさんご夫婦は大変喜んでおられた。今後、外務局などが中心となり、近所の人々のボランティア活動などにより、約3か月で新しい家が完成するとのことであった。



写真上：Hoang Anh Cauさんと妻
写真左：村人も協力しての建築の模様（2023年3月）

2023 春訪問団

奨学金支援

ハザン省で少数民族学生奨学金支援

KVPF 副会長 森 信夫（香川）



「2023年ハザン省ヴィスエン郡少数民族寄宿中学校奨学金贈呈式に参加して」

2023年1月10日、コロナの影響で3年ぶりに日本からのJVFP訪問団12人が中学校を訪れることができた。バスで到着するとすでに会場である校庭には大勢の子供たちやそのご家族、学校関係者が待ち受け、歓迎の拍手で出迎えられた。

ベトナムの旧正月のテト前であり、クラスごとにチョンケーキなどの力作揃いの料理のブースが展示されていた。贈呈式の前段には、歓迎のために練習してきた唄、踊り、民族楽器演奏などが子供達より披露され、歓迎一色であった。その後奈良から参加の吉元さんがマジックショーを行い、子どもたちも参加して、笑顔満面の時間を送ることが出来た。バンブーダンス（竹踊り）には訪問団も全員が参加させられ、子供達や先生方と手を取り合っ、慣れない踊りに苦勞していた。

贈呈式のスタートは、訪問団の森団長（香川）が歓迎のお礼、日本の憲法の三大義務（教育を受けさせる、勤労、納税）



写真左：奨学金支援七期生（2022年度開始）の高校1年生たちと参加した支援者。
写真上：訪問団はテト前だったことで教師や父母と昼食交歓をもった。

を紹介しながら、しっかり学習することが個人、家族、そして国の発展につながることに、友達、仲間を作ることも今後の社会で生きていくうえで重要という激励の挨拶を行った。

その後、学年ごとに訪問団から奨学金と文房具やお菓子の詰め合わせを一人一人に贈呈した。なお、今回は4期、5期、6期と新たに高校1年生を対象とした7期に加えて、学校側から要望のあった新1年生も特別に1年間の奨学金等を贈呈した。

生徒を代表しての挨拶では、奨学金に対する感謝のお礼と、勉強に対する意欲に加えて、精神的にやる気も起こさせてくれているという素直な言葉が述べられた。

贈呈式の最後には新任のPhạm Bá Tuyên校長より、奨学金が子供たちの学業と人生において立ち上がる機会を与えてくれているという趣旨のお礼が述べられた。終了後には子供たちが一緒に写真を取ってほしいとの要望もあり、笑顔があり、元気のある子どもたちの姿にこの奨学金の果たす役割の重要性を改めて感じた。

また、贈呈式の終了後には、教員などの学校関係者とご家族との昼食会が催され、言葉が通じない中ではあったが、生活の苦勞話や奨学金のありがたさがそれぞれから語られていた。先生からは不足する教材の話も聞かされ、日本に持ち帰

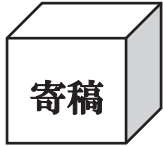
る宿題となった。前校長も贈呈式に参加し、帰りに今の学校に立ち寄るなども飛び入りでの行動となった。

いづれにしても、JVPFの奨学金支援が定着していること、その継続への要望が強いことをしっかり感じる事が出来た。今後、日本でベトナム現地での状況を伝え、多くの地域で支援者の拡大を募り、継続性をもった活動とすることが重要と

痛感した。

【付記】

交歓会で教師より要請を受け、香川 KVPF はヴィスエン郡少数民族学校に教材としてソーラー電卓75台を贈呈することになった。



ベトナムで「ブラインドメイク」 ～8年前の失明からベトナムへたどり着く～

中島 千恵

「ブラインドメイク」をご存知でしょうか？ブラインドメイクは鏡を使わずに自身の指先を使い化粧ができる技法です。

私は、8年前に1年間で何不自由なく見えていた世界から全く見えない世界になりました。絶望だった私に元気をくれるきっかけの一つがブラインドメイクとの出会いでした。

戦争の影響で日本と比べて視覚障害者が多いベトナムに2022年10月10日に、ブラインドメイクを伝えに行ってきました。

このプロジェクトのために、たくさんのベトナムの人が協力してくださいました。オンラインを使用し、定期的に打ち合わせをしました。ベトナムを訪問し、直接会えた時の喜びはとても大きかったです。

ハノイ盲人協会の副会長がご尽力してくださり、当日は35人もの当事者が参加してくれました。サポートするために協会から10人も同行してくれた気配りもとても感謝しています。

この日のために、ワンピースを着たり、ピアスをつけたり、男性はスーツを着ておしゃれて参加してくれている様子を聞くと、とても嬉しく心が弾みました。

なかなか独りでの外出が困難な視覚障害者にとって、今回のプロジェクトがおしゃれをして外出する機会のひとつにな



っていただけのかと思うと嬉しいです。今回は口紅しかブラインドメイクを伝えることしかできませんでしたが、プレゼントした化粧品に興味を持ち、参加者の中にはアイシャドーやアイブローのやり方を教えてと積極的に聞いてくる人もいました。楽しく、嬉しそうに化粧をしている雰囲気伝わってきた時は、視覚に障害があってもやはりおしゃれを楽しみたいと想う気持ちは世界共通なのを確信しました。

ハノイ盲人協会のダンスクラブの披露もありました。見えていない人同士がパートナーとなり、綺麗なダンスを披露さ

れているのは感動しました。ダンスが苦手な私にも、リズム感を伝えて、エスコート

してもらいながら一緒に踊ったのはいい思い出になっています。

現在、オンラインで5人のベトナムの人にブラインドメイクのレッスンを化粧訓練士がしています。日越外交関係樹立50周年の今年の10月は、昨年のご縁を大切にして、ベトナムの人と共に、更なるブラインドメイクを広げる活動をして参ります。

・中島千恵さんはJVPF 会員の娘さん。第6回 ブラインドメイクを世界に広げよう 2022 in ベトナム・ハノイ (10月10日) に日本から参加された。



写真右端が中島千恵さん

topics

在日ベトナム仏教徒信者会のティック・タム・チー会長（大恩寺住職）一行が、宮古市に東日本大震災復興祈念で植樹されたねむの木を訪れた。(2023/6/15) これは JVPF の発起で当時のグエン・フー・ビン駐日ベトナム大使が植樹されたもの。今回、JVPF 会員の竹花邦彦・宮古市議(上写真左から2人目)、JVPF 岩手支部の金澤康さん(上写真左から1人目)がアテンド。



JVPF 第16回通常総会報告

2023年5月20日(土)開催

・総会には駐日ベトナム大使館からフアン・チェン・ホアン一等書記官(丸円写真)に来賓挨拶を頂いたほか、在日ベトナム人や訪日中のニャチャン大学 TRAN THI MY HANH 教授も参列いただいた。



2022年度事業報告(抜粋)

【組織活動】

1、2年間にわたり COVID-19 禍で制約された活動を強いられてきましたが、2022年度は社会生活の様相変化に沿い、可能性を探りながら諸活動を進めてきました。ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートの再開がなされた一方、今後の組織運営や活動内容で多くの課題も明らかになりました。

①認定NPOへの移行の具体化については2021年12月に申請し、2022年9月15日東京都の立ち入りを受けましたが、「不認定」となりました。今後、再申請する場合には事務管理を整える必要があります。

【事業】

1、教育支援事業(1)一少数民族出身学生奨学金支援

3年ぶりに訪問団を実施し、奨学金を届けました。

①北部ハンザ省で少数民族中学生を対象に7年目の支援事業を実施。これは個人サポーターのほか、宮崎VJVPF支部、かがわJVPF支部、JVPF岩手、大分JVPF等が中心になって進めています。また、今期は慈善団体「未来を築く教育基金」の協力を得て中学1年生10人に奨学金を贈呈してきました。

②ラムドン省の少数民族寄宿高校でJVPF鹿児島支部が、10年に渡るプロジェクトの最終年の八期生10人に奨学金を贈呈しました。

③クアンチ省では友誼団体の広島HVJVPFの訪問団が現地を訪問して、1~3年生各20人に13年目となる奨学金を贈呈してきました。

④「ふえみんベトナムプロジェクト」がダナン市で実施している生活困難や聴覚障がいを持つ子どもたちに対する「希望の村」での支援は25年目を迎えています。2022年度は118

追悼

当会の副会長で、発足時から事務局長、その後理事長と文字通り中心的な任にあたっておられた大西繁治さんが病魔に勝てず、2022年12月16日、ご逝去されました。



さる6月25日、地元、香川では仲間たちが集い「大西繁治さんを偲ぶ会」が催され、当会の村山富市会長がご冥福を祈りメッセージを寄せられました。

偲ぶ会のご案内をいただきましたが、押し寄せる高齢には勝てず出席は失礼します。

大西さん、逝くのが早いよ

JVPF(日本ベトナム平和友好連絡会議)の会長を仰せつかり、枯葉剤被害者リハビリ訓練施設の起工式に帯同した折、貴兄の活動の一端を知り感銘を受けました。

さらに、被害者の現地家族訪問をしてみて、被害の深刻さは言葉に表せないものでした。

JVPFの活動は、被害者の支援・対策でこれからも長い期間の活動が求められていると思います。また、ベトナム政府から永年のボランティア貢献の証として「平和勲章」の授与式にも帯同し、喜びを分かち合ったものです。

私たちに対する長い間のご指導、ご教示ありがとうございました。

貴兄をおそった病魔をうらみます。

後輩たちが引継いでいきますのでご加護ありますように

大西さん ゆっくり お休みください。

村山富市

人の子供に就学支援、ろう児への職業訓練、手話教育支援、卒業生への自立支援が行われてきました。

2、教育支援事業(2)一村山記念JVPF日本語学校

①村山記念JVPF日本語学校は、2021年1月から休校状態でしたが、再開の見通しが立っていません。今期は、リモート授業による卒業生が明治大学に推薦入学しました。

②留学生・実習生希望の学生を対象とした「寄宿日本語塾」は継続されています。

3、国際協力事業(1)一枯葉剤被害者支援のための活動

①JVPF設立の柱である支援活動及び調査・慰問は3年ぶりに実施されハザン省で2軒の家庭を訪問しました。

②さいたまJVPFがクアンナムで実施している「仁愛の家」寄贈活動は、現地の支援継続の要請に応え2023年の再開を準備されています。

③チャリティーコンサートによる支援事業はコンサートを実施したものの開催数等の問題で支援基金を作るには至りませんでした。しかし、「連合・愛のカンパ」と「事業復活支援金」及び「枯葉剤被害者支援カンパ」によって「仁愛の家」寄贈をハザン省で実施することができました。但し、為替変動で建築費が増加し、予定の2軒には至らず1軒のみの寄贈と

なりました。

4、国際協力事業（2）—ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

日越文化交流の目的をもって3年ぶりに25回目となるベトナム民族アンサンブルコンサートを実施してきました。開催地の反響は良かったものの広がりには厳しいものがありました。

7、目的のための必要事業—日越友好植林事業

①2023年の日越外交関係樹立50周年を記念し、現在ベトナムが提唱している《2021年～2025年を期間とする、10億本植林プロジェクト》に応える形で、2022年8月、ハザン省の事業予定地調査を行い、ハザン省日越友好植林事業プロジェクトへの助成申請を日中友好会館に申請し交付決定を受けました。そして、2023年1月、現地で事業の開工式と記念植樹を実施してきました。

2023年度事業計画（抜粋）

【組織活動】

1、2022年度にベトナムアンサンブルチャリティーコンサートの3年ぶりとなる再開などありましたので、2023年度は社会生活の態様の変化に沿い、日越外交関係樹立50周年を足掛かりにして一層の友好活動発展を目指していきます。

【事業】

1、教育支援事業（1）—少数民族出身学生奨学金支援

①ハザン省での少数民族寄宿中学校への奨学金支援事業の8期を進めます。これに関連した特別支援として、香川KVPFがソーラー電卓70台の寄贈を計画しています。

②ハザン省ヴィスエン郡公立中学校で2023年から少数民族出身学生を対象に支援を5年間実施することになりました。これは、JVPFの活動に協賛された慈善団体「未来を築く教育基金」の申し出によるものです。

③JVPF鹿児島支部のランドン省少数民族寄宿高校での奨学金支援活動は2022年度で10年間のプロジェクトを終了しましたが、継続して行うことになり、2023年度に「ソーラー温水器及びシャワー一式」寄贈されます。

④広島HVPFのクアンチ省での少数民族学生への奨学金支援活動をサポートします。

2、教育支援事業（2）—一村山記念JVPF日本語学校

当校の設立趣旨に沿い日越の若者の橋渡しになるよう、その活動をサポートしていきます。そのため学校再開に向け努力します。

3、国際協力事業（1）—枯葉剤被害者支援のための活動

①JVPF設立の柱である支援活動を調査・慰問として続けていきます。

②さいたまJVPFの「仁愛の家」寄贈活動をサポートしていきます。

③枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈活動のため、「連合・愛のカンパ」助成とチャリティーコンサート事業をもって進めることにします。

④枯葉剤被害者現状及び日本での枯葉剤埋設現場のキャンペーン活動をおこないます。

4、国際協力事業（2）—ベトナム民族アンサンブルチャリテ

イーコンサート

2023年度の活動を準備していきます。

5、国際交流事業（1）—日本語及び日本研修

村山記念JVPF日本語学校の訪日団の「日本語及び日本研修」関係者と相談していきます。

6、国際交流事業（2）—文化・スポーツ交流

コロナ禍以前に戻るよう関係者と相談していきます。

7、目的のための必要事業—日越友好植林事業

①本プロジェクトは一期から三期（各期3か年）の事業となり最終年は2027年となります。各期最低1回の植林事業ボランティアを派遣していきます。

②また、本プロジェクトには派遣調査のための植林専門技術者派遣が要件となっていますので、林野労組等に協力を仰ぎ派遣していきます。

定款にかかわる変更の件（会費規程）

第16回総会確認で『会費規程』が改定された。

2022年度活動計算書（2022.4.1～2023.3.31）			
経常収益	4,192,680	経常費用	4,100,852
会費	870,000	事業費	2,279,995
寄附金	3,047,678	管理費	1,820,857
その他	285,002	当期損益額	91,828

2022年度財産目録（2023.3.31）			
資産の部計	793,852	負債の部計	251,560
流動資産	793,852	流動負債	251,560
固定資産	0	固定負債	0
正味財産計	542,292		

掲示板

●日越外交関係樹立50周年事業はJVPF中央では計画できなかったが、5月の鹿児島JVPFの訪問団の他、宮崎JVPFの川畑さんが音頭を取り宮崎MJVA訪問（7月）、さいたまJVPFの平松さん呼び掛けのクアンナム枯葉剤被害者支援訪問（8



越日友好協会ピン会長と会談後/鹿児島JVPF（2023/5/24）

月）、JVPF副会長赤木達男さんが会長の広島HVPF記念HVPF訪問団（11月）など予定されている。

●枯葉剤被害者支援2023秋ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートも、開催数は少ないが、日越外交関係樹立50周年事業として10月17日～25日、準備中。

●一月にボランティア植林を実施したハザン・日越友好植林事業は7月に専門技術者派遣を実施。

日越外交関係樹立50周年事業

ラムドン省・奨学金支援事業終了を受け、ソーラー温水器シャワー設備を寄贈

鹿児島 JVPF 川路 孝



奨学金支援10年を終えて

5月22日、JVPF 鹿児島支部は、新潟からの参加者1人を含め8人で、奨学金支援をしてきたラムドン省のダラットにある「ラムドン省少数民族寄宿高等学校」を訪問、最後の支援者となった高校生10人をはじめ、校長先生や教職員の皆さんから、熱烈な歓迎を受けるとともに、親しく交流をすることも出来ました。

今回は、コロナ感染拡大の中で訪問できず3年ぶりの訪問でありましたが、足掛け10年間となった奨学金支援事業を、一区切りつけることとしたことから、最後の学校訪問でもありました。

懇談の中では、10年の支援を通して、高校生の皆さんの目の輝きを見て分かりましたが、純粋に、目的をもって学ぼうという姿に接しながら、努力している姿に、私たちが元気を頂いたことへの感謝の気持ちをお伝えしながら、枯葉剤被害者支援の活動継続など、これからも、ベトナムの社会発展、少数民族社会の発展のために、各種の支援を続けることをお話ししてきました。

なお、この**10年間、80人**の学生にそれぞれ3年間、奨学金を贈ることができましたが、その為のサポーターとして鹿児島県内で50の方に協力いただき、1人を3年間継続して支援していただく事で、この奨学金支援を続けて来れました。サポーターの皆さんにも感謝です。

なお、この10年の支援活動の記念として、学校からの希望もあり、温水シャワー設備を贈呈することになり、その贈呈式も行いました。また、全校生徒約430人へのボールペンプレゼントもみんなのキャンパで行いました。

54の民族をもって構成されているベトナムにおいて、少数民族社会の発展を抜きにベトナム社会の発展も無いとして、大きな努力がされているベトナムの政治に感銘を受けながら、改めて、これからの支援についても、検討していく事としました。

活動の柱“枯葉剤被害者支援”を忘れずに

今回、枯葉剤被害者支援の立場から、ホーチミン市の戦争証跡博物館見学や被害者のグエン・ドクさんとの面会、ハノイ市の「平和村」訪問など、実施することができました。

グエン・ドクさんとの面会は、現地地 JVPF ホーチミン事務所長のザー・クアン・ルオンさんの取り計らいでお会いすることができました。ドクさんには双子の子供さんもいらっしゃるのか、日本に何度も講演にも行っていることなどお伺いでき、日本語も流ちょうに話されることも知り、交流の中で改めて感銘を受けるとともに、枯葉剤埋設問題を抱える鹿児島との交流・連携もお願いしながら、鹿児島での講演会開催のお願いもしてきたところです。

さらに、鹿児島からの訪問団としては初めて、ハノイの「平和村」を訪問。枯葉剤被害者の2世、3世、4世の障がいを持った子供たちとハノイのダウン症など患っている子供たちのリハビリとともに病院も併設した施設で、国立の施設ですが、世界のボランティアからの支援に頼りながらの運営をしているという施設でした。

当日は、医師でもある副施設長と運営担当の副施設長に対応していただき、状況説明や施設の見学案内もしていただきました。

説明では、「現在被害者の4世の障がい者がいること、5歳から16歳の障がい者45人のリハビリをするとともに、大人になって退院したら、地方の労働局等で担当し、働き収入を得ている人もいる」とか、初めて状況を知ることができました。また施設としても、これからもできるだけ社会復帰できるように努力したいというお話もありました。

訪問団から、支援金と文具などお渡しすると、リハビリの器具も古く買い換えたいが、国の管理下におかれる現金よりも現物が助かるとの話もありました。

リハビリ中の子供さんの部屋を案内していただきましたが、みんな元気に、にこやかに頑張っている姿を見て感銘しました。また、子供たちが作った製品は販売し、運営の資金にしているとのことでした。

改めて支援の在り方についても考えさせられました。

また、今回も越日友好協会からグエン・フー・ビン会長夫妻とベトナム友好委員会連合アジア・アフリカ部オアイン部長ともお会いすることができました。「まだまだ貧しい少数民族も多い、引き続いで支援を」との要請もあり、検討させていただくこととしました。

今回の訪問は、**200万人餓死事件慰霊碑参拝**も行い、今までになく充実したものになりました。これを教訓に、これからも一層活動強化していくこと参加者で確認しあいました。



写真上：ドクさんとの出会い (2023/5/23)
写真下：ハノイ「平和村」で入所者を慰問 (2023/5/25)

